



## 安全データシート（SDS）

## 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当

TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2024/06/03  
SDS整理番号 02145150

製品等のコード : 0214-5150、0214-5160、0214-5189

製品等の名称 : ほう酸（オルトほう酸）

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途（当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。）  
めっき用、写真材料、染料、顔料、塗料、洗剤、溶剤・界面活性剤等、殺虫剤、  
防虫剤、防腐剤、医薬・医薬中間体、触媒、難燃剤、ガラス、人造宝石、化粧品、  
皮革工業用（仕上げ）、釉薬、高級セメント、ろつそくの芯、防火原料、  
エナメルなど

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分に該当しない  
自然発火性固体 : 区分に該当しない  
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない  
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

## 健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分に該当しない〔区分5(国連GHS分類)〕  
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A  
生殖毒性 : 区分1B  
特定標的臓器毒性  
（単回ばく露） : 区分1（消化管、中枢神経系）、  
区分3（気道刺激性）

## 環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない  
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない

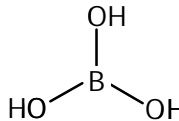
注意喚起語 : 危険

## 危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ（経口）  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
消化管、中枢神経系の障害  
呼吸器への刺激のおそれ

## 注意書き

【安全対策】



全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
 取扱後は、よく手を洗うこと。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
 保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。

## 【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。  
 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。  
 気分が悪い時は医師に連絡すること。  
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。  
 眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。  
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

## 【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質、混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	ほう酸
	:	(別名) オルトほう酸、トリヒドロキシドホウ素、 トリオキシホウ酸三水素、トリオキシホウ酸、 トリヒドロキシボラン
	:	(英名) Boric acid (EC名称)、 Boric acid (H3B03) (TSCA名称) Hydrogen orthoborate、Orthoboric acid、 Trihydroxyborane、Trihydrogen trioxoborate、 trioxoboric acid
成分及び含有量	:	ほう酸、 99.5%以上 ほう素 (B) 含量 = $99.5 \times 10.811 / 61.83 = 17.4\%$
化学式及び構造式	:	H3B03、 BH303、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	61.83
官報公示整理番号	:	(1)-63
	:	化審法： 公表化学物質 (化審法番号を準用) 安衛法：
CAS No.	:	10043-35-3
EC No.	:	233-139-2
危険有害成分	:	ほう酸

## 4. 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、流水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外して洗うこと。洗浄を続ける。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	:	吸入 ; 咳、咽頭痛 皮膚 ; 発赤。損傷した皮膚から吸収される可能性あり。 眼 ; 発赤、痛み 経口摂取 ; 腹痛、痙攣、下痢、吐き気、嘔吐、皮疹

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 本品は不燃性である。

- 周辺火災に応じた消化剤を使用する。  
 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂
- 使ってはならない消火剤： 棒状注水（本品があふれ出て、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。）
- 特有の危険有害性： 不燃性であり、それ自身は燃えないが、火災で加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。
- 特有の消火方法： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
 大火災の場合、泡消火剤が有効である。
- 消火を行う者の保護： 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ： 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。  
 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。  
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項： 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
- 回収、中和： 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。  
 粉じんが飛散する時は、水を噴霧し湿らせる。  
 後処理として、漏洩場所はソーダ灰溶液で洗浄し、  
 大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材： 危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策： 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。  
 粉じんの堆積を防止する。
- 局所排気・全体換気： 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
- 安全取扱い注意事項： すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
 接触、吸入又は飲み込まない。  
 粉じんを吸入しない。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避： 湿気、水、高温体との接触を避ける。

保管

- 技術的対策： 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
- 保管条件： 直射日光や高温多湿を避けて保管する。  
 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。  
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質： 炭酸アルカリ、水酸化物
- 容器包装材料： ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

<参考> 容器包装材料の耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

【 ○：良好 △：やや良好(条件による) ×：やや不良 -：データなし 】

・試験温度：65

スチレンゴム クロロプレンゴム(ネオプレン) ニトリルゴム ブチルゴム  
 天然ゴム シリコーンゴム- フッ素ゴム(バイトン、ダイエル) テフロン  
 軟鋼× ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム× 銅

・試験温度：室温(RT)

軟質塩ビ 硬質塩ビ ポリスチレン ABS ポリエチレン ポリプロピレン  
 ナイロン アセタール樹脂 アクリル樹脂 ポリカーボネート ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度： 設定されていない。
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：  
 日本産衛学会 設定されていない。  
 ACGIH TLV-TWA 2mg/m3

設備対策	: TLV-STEL 6mg/m3 (吸入) この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸用保護具（防じんマスク）を着用する。
手の保護具	: 保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 結晶又は結晶性粉末
色	: 白色
臭い	: 無臭
pH	: 約5.1 (0.1mo/L 水溶液)
融点	: 100 (分解)
凝固点	: データなし
沸点	: 300 (分解)
引火点	: 不燃性
可燃性	: 不燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: 3.47 hPa (20 )
相対ガス密度 (空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: 1.49 g/cm3 (20 )
比重	: データなし
溶解度	: 水に溶ける (4~5%、20 )。 エタノール、グリセリンに溶ける。
オクタノール/水分配係数	: log Pow=0.18
発火点	: 不燃性
分解温度	: 100
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
可燃性固体	: 本品は不燃性 (ICSC,1994) であることから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	: 本品は不燃性 (ICSC,1994) であることから、区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品	: 本品は不燃性 (ICSC,1994) であることから、区分に該当しないとした。
水反応可燃性化学品	: 水に対して安定(水溶解度5.6g/100mL(ICSC(1994))) であると考えられるので、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)	: 不燃性であり、通常取扱条件において安定である。 加熱すれば、100 でメタホウ酸 (HB02)、140 で四ホウ酸 (H2B407) に変化し、300 でガラス状の酸化ホウ酸 (B203) になる。
危険有害反応可能性	: 炭酸アルカリまたは水酸化物と混触すると反応する。 100 以上に加熱すると分解し、水、刺激性の無水ホウ酸を生じる。
避けるべき条件	: 高熱、日光、湿気
混触危険物質	: 炭酸アルカリ、水酸化物
危険有害な分解生成物	: 無水ホウ酸 (100 以上に加熱分解時)

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 2,660-5,140 mg/kg (NITE初期リスク評価書(2008)) 区分5とした (国連GHS分類)。 ただし、JIS分類では区分に該当しないである。 飲み込むと有害のおそれ (経口) (区分5) 経皮 ラット LD50 > 2,000 mg/kg (EU-RAR (2007)) 分類できない。 吸入 (気体) 区分に該当しない (GHSの定義における固体のため)。
------	---

	吸入 (蒸気) 分類できない。 吸入 (粉じん) 分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: 4時間適用試験が不明であるが、モルモット及びウサギを用いた、本物質の10%水溶液を5 mL 適用した皮膚刺激性試験において、「24、72 時間後に判定した試験で、モルモット及びウサギのいずれにも刺激性がみられた」(NITE 初期リスク評価書 (2008))、「軽度から中等度の皮膚刺激性がみられた (PATTY (4th, 2000)、PATTY (6th, 2012))」との記載から、区分2とした。 皮膚刺激 (区分2)
眼に対する重篤な損傷/刺激性	: ウサギ6匹を用いた眼刺激性/腐食性試験では、本物質100 mg を24時間適用後、洗眼した結果、結膜に水疱がみられたが、7日以内に回復した (IUCLID (2000))。また、ATSDR (2007)、ACGIH (7th, 2005) のヒトへの健康影響の記述において、その程度、回復期間については不明だが、刺激性があるとの報告が得られていることから、区分2 Aとした。 強い眼刺激 (区分2A)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類できない。
生殖細胞変異原性	: 区分に該当しない。 In vivoでは、マウス骨髄細胞を用いる小核試験で陰性であった (NITE初期リスク評価書 (2008)、EU-RAR (2007)、IUCLID (2000)、ACGIH (7th, 2005)、EPA Pesticide (1994)、ECETOC-TR 63 (1995))。
発がん性	: 区分に該当しない。
生殖毒性	: A4 (無機ほう酸化合物として) に分類されている。 マウスを用いた連続交配試験では雄の生殖能に対する影響がみられ、精 (胎) 能力低下、不妊、出生児数減少、出生児体重減少がみられている。ラットを用いた3世代生殖毒性試験では精巣萎縮、排卵数減少、雌の生殖能に対する影響によると考えられる不妊がみられている (NITE初期リスク評価書 (2008)、ACGIH (7th, 2005)、EHC (1998)、DFGOT vol. 5 (1993))。発生毒性については、ラットを用いた催奇形性試験において母動物に影響がみられない用量で胎児体重減少、第13 肋骨短縮及び波状肋骨の増加がみられている (NITE初期リスク評価書 (2008)、EHC 204 (1998)、ACGIH (7th, 2005)、DFGOT vol. 5 (1993)、NTP DB (2013))。また、母動物毒性のみられる用量でラットでは胎児死亡率増加、胎児体重減少、頭蓋顔面の奇形 (主として無眼球、小眼球)、中枢神経系の奇形増加 (主として脳室拡張、水頭症) (NTP DB (2013))、ウサギでは胎児死亡率増加、心血管系の奇形増加 (主としてVSD) (NITE初期リスク評価書 (2008)、ACGIH (7th, 2005)、EHC (1998)、NTP DB (2013)) がみられている。 以上のことから、区分1Bとした。 生殖能または胎児への悪影響のおそれ (区分1B)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: ヒトについて、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、中枢神経系の抑制、痙攣、呼吸器刺激の記述 (ACGIH (7th, 2005)、DFGOT vol. 5 (1993)) があり、また、実験動物については、わずかな気道刺激性がみられた (ECETOC TR 63 (1995))。以上より、分類は区分1 (中枢神経系、消化管)、区分3 (気道刺激性) とした。 中枢神経系、消化管の障害 (区分1) 呼吸器への刺激のおそれ (区分3)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 分類できない。
誤えん有害性	: 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

- 水生環境有害性 短期 (急性) : 区分に該当しない。  
藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) 72時間ErC50 = 290 mg/L (環境省生態影響試験, 2008)、  
甲殻類 (オオミジンコ) 48時間LC50= 133 mg/L (NITE初期リスク評価書, 2008; 環境省リスク評価第6巻, 2008)、  
魚類 (ギンザケ) 96時間LC50 = 447 mg/L (NITE初期リスク評価書, 2008)。  
水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分に該当しない。  
本物質は無機化合物であり水中での挙動が不明であるが、魚類 (ニジマス) の87日間NOEC = 2.1 mg/L (NITE初期リスク評価書, 2008; 環境省リスク評価第6巻, 2008) であることから、区分に該当しないとした。

- 残留性・分解性 : データなし
- 生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Pow=0.18
- 土壤中の移動性 : データなし
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。  
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。  
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
（参考）希釈中和法  
少量の場合、大量の水に溶解し、ソーダ灰などのアルカリ液で中和し、廃棄処分する。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

- 国内規制（適用法令）

  - 陸上規制 : 特段の規制なし（非危険物）
  - 海上規制 : 特段の規制なし（非危険物）
  - 航空規制 : 特段の規制なし（非危険物）
  - 国連番号 : 非該当
  - 国連分類 : 非該当
  - 品名 : 非該当
  - 海洋汚染物質 : 非該当
- MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当
- 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
重量物を上積みしない。  
必要に依り移送時にイエロカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物  
（政令番号 第544号「ほう酸及びそのナトリウム塩」、  
対象重量%は 0.3）  
名称等を通知すべき危険物及び有害物  
（政令番号 第544号「ほう酸及びそのナトリウム塩」、  
対象重量%は 0.1）  
（別表第9）

なお、皮膚等障害化学物質やがん原性物質に非該当  
（安衛則第594条の2、安衛則第577条の2）
- 化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）

  - 種別 : 「第1種指定化学物質」
  - 政令番号 : 「1-458」
  - 管理番号 : 「405」
  - 物質名称 : 「ほう素化合物」
- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 消防法 : 非該当
- 船舶安全法 : 非該当
- 航空法 : 非該当
- 海洋汚染防止法 : 非該当
- 水質汚濁防止法 : 有害物質（第二条）  
「ほう素及びその化合物」  
〔排水基準〕 10mg/L（B, 海域以外）  
230mg/L（B, 海域）
- 大気汚染防止法 : 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質

- 土壌汚染対策法 : 「ほう素化合物」(中環審第9次答申の221)  
 : 第2種特定有害物質(政令第1条第23号)  
 「ほう素及びその化合物」  
 溶出量基準値 ; 1mg/L (Bとして)  
 含有量基準値 ; 4000mg/kg (Bとして)
- 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制(別表第1の16項)  
 HSコード : 2810.00  
 第28類 無機化学品  
 ・輸出統計番号(2024年1月版) : 2810.00-000  
 「ほう素の酸化物及びほう酸」  
 ・輸入統計番号(2024年4月1日版) : 2810.00-000  
 「ほう素の酸化物及びほう酸」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。